

# あかしびと

92号 イースター号 2015.4.5 発行  
日本バプテスト同盟 金沢文庫教会



イエス・キリスト  
中山将太郎画

## 誘惑 白根新治牧師

女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆（そそのか）していた。女は実をとって食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。

創世記3：6,7

誘惑は恐ろしい。「その実はいかにもおいしそうで、目をひきつけ、賢くなるようそそのかしていた。」これが悪の実態である。お互いに気を付けたい。

α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

### 目次

誘惑	白根新治(牧師)	p. 1
あなたの御言葉は わが足の …	澤野 寛(牧師)	p. 2
信仰告白	小澤博美	p. 4
短めの随筆 (3編)	中山将太郎(医博)	p. 5
陽子ちゃんのお母さん	澤野美栄子	p. 6
復活の主イエスに与る	白根義輝	p. 7
私の愛唱讃美歌	梅谷興三	p. 8
主 私とともにいる 感謝です	中川澄子	p. 9
祈り	根岸千恵子	p. 9
友を近くに置け、敵はもっと…	犬塚志朗	p.10
カリグラフィー(作品)	星野富容	p.12

## 「あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です」

詩篇 119 編、105 節 澤野 寛(牧師)

私どもキリスト者にとって神の言葉とは何よりも「聖書」です。神からの私どもへの語りかけとして授与されたものが聖書です。主なる神が私どもに自らをあらわすことを啓示とありますが、神の私どもへの自己啓示は自然を通して、歴史的出来事を通して、さまざまな人生の出来事を通してなされますが、何よりも聖書の言葉を通してなされるのです。他の宗教では生ける神との出会いを、難行、苦行、修練によって、あるいは夢や幻のような神秘的なものを媒介とする場合もありますが、私どもは、あくまでも聖書を読むことによって、聖書を御言葉として受容することによって主なる神が私どもに語りかけ、私どもの人生に光を与えて下さっているということを受け止めるのです。

ある人は「聖書は正典として神の言葉である」と語りました。正典とは、他の諸々の書ではなく、聖書のみを聖なる、正なる書として重じる、という意味です。「正典」（原語では「カノン」）という言葉は元来は「定規、規範」という意味だったのが、やがて神学的用語として、特に異端との対決において「信仰の規則、教会の基準」として用いられるようになった（文章としては 350 年ラオデキヤ教会会議の法令 59 において初めて用いられている）そうです。ある人は「正典とはある一群の文書が他のものと区別され神的、規範的権威を有するものとして認められたもの」と語っています。

現在私どもが聖書としている旧約聖書 39 卷、新約聖書 27 卷が「聖書」（正典）として決定されたのは紀元 397 年第 3 次カルタゴ教会会議であるといわれております。それまでにも聖書正典化の歴史があり、教会制度、信条成立の歴史と並行しており、上述のように異端との戦いの中で、教会の一致が求められていったのが、正典化の主な理由です。

聖書正典化にも古代教会の血のにじむような戦いがあったのですが、ある人は教会は助産婦のようなものであるといえます。つまり正典化の歴史において古代教会は背後にある御霊なる神に導かれたの

であり、聖書正典化の歴史は「聖書それ自身が神の言葉として教会に迫った」歴史であり、聖書を神の言葉とする聖霊による摂理であったとしか言えないのです。

古代教会の人達が何を基準として聖書正典化を進めたかは明らかです。決して単に信仰的敬虔を涵養するために役立つとか、律法的、倫理的生を生きるに役立つということを基準としたのではありません。勿論聖書はどのように生きるべきかを私どもに教える有益な書です。しかし何よりも聖書が正典とされたのは、これが神の言葉そのものであるキリストを証言する書であるからです。「あなたたちは、聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが 聖書はわたしについて証しするものだ」（ヨハネ 5 : 38）

「この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます」（第二テモテ 3 : 15）

上記引用句は聖書を聖書とする「聖書の自己証言」としてよく用いられる言葉ですが、聖書が神の聖霊によったと信じることは、決して一語一句を神の言葉として崇める、ということではありません。それが神の言葉であるということは、真の神の言葉たる生けるキリストを証しする唯一の「使徒的証言の書」であるからです。修養会のテーマ「神の言葉としての聖書」を顧慮する時、まず上記の如く聖書の正典性ということが想起されます。

しかしそれはただ頭の中で聖書は「正典である」と納得することではありません。聖書は「正典としてある」のではなく、私どもの生活の中で「正典となっていく」ものです。ある人は聖書は「神の言葉である」のではなく、「神の言葉となる」ものであると言いました。真実私どもが御言葉に生かされ、御言葉に生きるとき聖書は聖書となるのです。もし御言葉に生きることがなければ聖書は単なる書物でしかありえません。

先日教会役員会で今年の修養会テーマが決めら

れ、主題聖句を選ぶように依頼された時に、即思い浮かんだ御言葉があります。一つは新約聖書のマタイ福音書4:4、もう一つは旧約聖書119:105です。

マタイ福音書4:4は「荒野の誘惑」と呼ばれている記事の中のよく知られている御言葉です。まさに御言葉に、神の言葉に生きることを教える聖句です。

この御言葉は、私どもが地上の生活を生きるのにパンも必要です。しかしパンのみならず「神のことば」も必要ですということでありましょうが、これが荒野の誘惑の記事の中の言葉であるということをもう一度考え直してみる必要があります。

振り返ってみればいつも信仰的誘惑の一つとして「御言葉への真実さ」を、御言葉によって生きることの真剣さを失ってしまうのです。一生懸命パン(衣食住等の物質)を求めているのですが、同じような真剣さをもって御言葉を求めてはいないのです。ある説教者が語っています。

「私どもはいつも神様が本当の神様なら、石をパンに変えることぐらいしてくださいよ、そんなことをしてくれない神を、なぜ神といえるかと文句をいってしまう。パンだけの話ではない。不幸にぶつかるたびに、悲しみにぶつかるたびにそうやって、神様が自分にとって便利な神様でないことに腹をたててしまう。」

「荒野の誘惑」は私どもの中にある誘惑です。そのような私どもに「人はパンのみでいきるのではない・・・」と語られるのです。主イエスはこの言葉を左記の旧約聖書申命記から引用されました。

「あなたの神、主がこの40年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。それで主はあなたを苦しめ、あなたを飢えさせ、あなたも知らず、あなたの先祖たちも知らなかったマナをもって、あなたを養われた。人はパンだけでは生きず、人は主の口から出るすべてのことばによって生きることをあなたに

知らせるためであった。この40年の間、あなたの着物はすり切れず、あなたの足は、はれなかった。」(申命記8:2~4)

これはイスラエルの民がモーセに導かれ荒野を旅しなければならなかった時、餓えと渇きに直面した。彼らにマナという天からの不思議な食べ物をもって養われたこととの関連で記されている言葉です。主なる神は飢えに苦しむ民をよくご存じであるが故にマナという天からのパンをお与えになったのです。

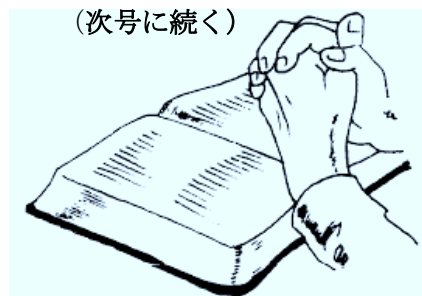
「あなたの着物はすりきれず、あなたの足ははれなかった・・・」と肉体的側面での配慮をしてくださっているのです。決して人間はパンなどの物質によって生きるのではない、もっと高尚な精神的、霊的ものによって生るのであるから、パンなどはどうでもよいと仰っているのではないのです。

神のことばによって生きるとはパンなど食べなくてもよい、聖書を読んでいればそれで十分だということではないのです。主なる神はパンへの配慮を無視されたり、否定されたりすることはないのです。

「日用の糧を与えてください」と祈ることも命じられています。しかしその上でパンだけでは養われない、神の言葉でしか養われない命の大切さを仰っておられるのです。

聖書での「命」という語(マタイ6:25、10:36、16:26)は「魂」とも訳せる言葉です。人間の全存在を意味する言葉で、神に造られた人間としての価値ある存在、その尊厳を意味する言葉です。人はどんなに美しい着物をきても、その存在の価値は着物によって装われる美しさを超えたものです。人の存在の値打ちは衣食住を超えたものであり、神の言葉によって生き、生かされるという命の持ち主であり、神とのかかわりの中に生きている存在なのです。

(次号に続く)

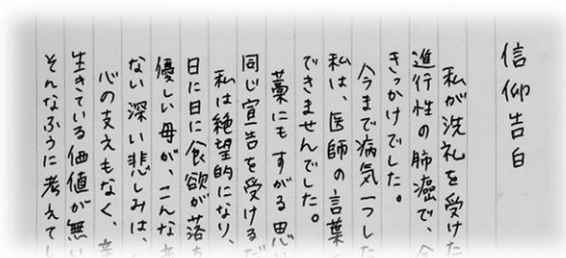


α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω

信 仰 告 白 小澤博美

私が洗礼を受けたいと決心した理由の一つは、この夏に、私の母が進行性の肺癌で、余命半年だと突然の宣告を受けたことがきっかけでした。

今まで病気一つしたこともなく、いつも元気で丈夫で明るい母でしたので、私は医師の言葉を信じられず、とても現実を受けとめることができませんでした。



藁にもすがる思いでセカンドオピニオンも試みましたが、どの医師からも同じ宣告を受けるだけでした。

私は絶望的になり、悲しみに暮れ、毎日のように泣いて過ごしました。日に日に食欲が落ち、痩せてしまった母を見ているのが辛く、どうして、優しい母が、こんな辛い目に合わなくてはいけないのか…、そんな行き場のない深い悲しみは、自分を追いつめていきました。

心の支えもなく、辛い日々の中で、何もできない無力な自分には、生きている価値がないのではないかと、苦しい現実から逃げてしまいたくなる。そんなふうと考えてしまう弱い自分が耐えられなかったのです。

その心の重荷は、教会での礼拝や、日常の中で神様への祈りに変わっていきました。

毎週の礼拝での牧師先生のお話や、教会員の方々の、それぞれの信仰に触れて、気づかされることが多くあります。信仰と共に歩む過程がそれぞれにお

ありになって、それを見せていただけるだけでも、人の尊さを感じます。苦悩の支えを、与えてくださっていると感じました。

私は毎日祈りました。お祈りを重ねるうちに、弱い私を、イエス様が励まして下さっているように感じ、心の平安があるからこそ頑張れるのだと気づきました。そして、もっと神様のことを学び、信じたいと願うようになりました。

私は、神様にいつも愛されている。だから価値が無いなどということはないのだと感じたからです。「私は主に愛されている」と思うことができるように、前に進みたいと思いました。

神様を信じないで、自分勝手な振舞いをしていた今までの自分と決別し、人生をリセットするつもりで、洗礼を受ける決意をいたしました。

私の罪を許して下さい、イエス・キリストを与えて下さった。神様に守られ、愛されているのだということ覚え、弱い自分を変えて、すべてのことに、感謝できる人になりたいと思います。2014. 12. 21



## 中山将太郎先生より短めの随筆

### (その1) 一日一生

私の好きな言葉は、内村鑑三(1861~1930)の「一日一生」である。でもこれは、彼の熱烈なキリスト教信仰が根底にないと成り立たない。即ち、「朝起きた時、神から純白な霊の衣をいただき、一日中注意して汚さず、夜神に返して安眠する。人生は、この繰り返しに過ぎない。しかし、いくら注意しても、誰かに押され、転んで汚れてしまうことはある。そんな時、自分でゴソゴソ洗って、却って汚してしまうのではなく、素直に神に謝って、お返しすれがよい」と。

実に簡単明瞭で、流石無教会主義キリスト教を創設しただけあり、日本の明治から大正にかけての大思想家の一人に必ず挙げられる。正宗白鳥、有島武郎、志賀直哉らは、皆青年時代に彼の感化を受けた。

私自身50年ほど前に、内村の『後世へ遺す最大遺物』を読んで、目から鱗が落ち、人生の苦しみに脱却、彼の無教会主義からキリスト教に入信した。それから50数年、私の人生においてキリスト教信仰はゆるぎない。

即ち、この世に於いて極力極められるものは、これを極め、極められないものは、イエスの十字架の信仰に依って、人生の最終ゴールまで走るだけである。



### (その2) ちょっとあったかい良い話



東京に出ると、よく「銀ブラ」をする。そしてかつての名優・高峰秀子が銀座で買った「ミンクのコート」を思い出す。

彼女はある日、買ったコートを帰って羽織り、ふとポケットに手を入れたら、小さく折り畳まれた紙片が出てきた。

それは一枚の便箋で、「私は、この毛皮の針子です。このコートの注文者が、私の大好きな高峰秀子さんと知り、嬉しくて、一針一針心を込めて縫い上げました。私が縫ったコートが、あなた様を暖かく包んでくれると思うと幸せです」とあった。

高峰秀子は、その誰からとも分からない手紙をそのまま、ポケットの奥にしまいこみ、胸に小さなローソクの火がポッと点いたといった。

読んだ私たちの胸にもあったかいローソクの火が灯る！

### (その3) コピペ?

日本語の悪化は、とどまることがなく、最初は縦書きから横書きに、さらに外来語をどんどん取り入れ、満身創痍、特に台湾出身で日本語と北京語の半々で教育を受けた私にとり、前半40年を台湾で、後半40年は日本で暮らし、台湾に帰り同年輩の人達と話すと、大正時代に回帰した錯覚に陥る。

例えば、「コピペ」という言葉を新聞で見たら、実はコピー&ペーストのことであり、最近ある理系女子(リケジョ)事件で有名になり、あわてて最新の日本語外来語辞典を調べても見当たらなかった。来年

の新刊でないと、載るはずはない。

とにかく、昔から『作文』という句があるように、文は作り、物事はコピーしてペーストで、カムフラージュするので、この一回しかない人生を誤魔化されないよう各自注意するしかない!



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

#### 陽子ちゃんのお母さん (イースター用、子供向きのお話)

澤野美栄子

陽子ちゃんは小学校2年生 とても元気な女の子  
体育が大好き 給食の時間も楽しみ  
勉強もそこそこがんばっています。  
今日も朝ご飯を沢山食べて元気に登校しました。  
とてもいいお天気だったのに、3時間目が終わった  
頃から急に空が真っ暗になって来て雨がポツポツ  
「エ! ウソ!」  
大好きな給食もぜんぜん味がわからなかった。  
5時間目になるとザーザー降りの雨  
「イヤダー、イヤダーお母さんが傘持ってくる～」  
黒板を見ないで廊下の方ばかり気にして  
「アー! 来た!」  
終業の挨拶が終わったとたん、前の出口から後ろも  
振り向かず、陽子ちゃんは雨の中へ駆け出しました。  
「陽子ちゃん! 待って! 雨に濡れるでしょ!」  
お母さんの声が追ってきます。  
「お母さん。お願い、学校に来ないで!」  
実はね、陽子ちゃんのお母さんの顔、左半分はとて  
もきれいな、本当に美人だな!と思うの、でも右  
半分はね、紫色のブヨブヨのケロイド  
とってもひどいの。

小学校1年の時陽子ちゃん、ある男の子から  
「ヤーイ、おばけの子!」ってからかわれてね、  
その言葉が胸にグサッと刺さってね、それ以来誰に  
もお母さんのこと見られたくなくなったの。  
お家に帰って、ずぶ濡れになった陽子ちゃんの身  
体を静かに拭いてくれる  
お母さんに思い切って、今まで聞けなかったこと聞  
いてみたの。  
「お母さんの顔、どうしてそんなおばけみたいな  
の?」  
お母さんはね、静かにほほえんで、ゆっくり話して  
くれた。  
「あれはね、陽子がようやくつかまり立ちできる  
ようになった寒い冬の頃だったわ  
お母さんね、暖かいシチュウーを作ってね、  
冷めないようにと思ってストーブの上に置いてし  
まったの  
ちょっと目を離れたすきに、陽子ちゃん、その湯  
気を追っかけてきて  
おなべの取っ手をつかんで立ち上がりかけたの。  
お母さん夢中で陽子の上におおいかぶさったの。

でもね、その時、お母さん本当にうれしかったの。  
陽子には何のけがもなかったの。  
お母さんが陽子の身代わりになれたのよ。  
だから本当に神様に感謝したわ・・・！」

その話を聞きながら陽子ちゃんの心は熱いものでいっぱいになったの。

「お母さん、ありがとう、今まで本当にごめんなさい。

お母さん大好き！」

陽子ちゃんのお母さんは陽子ちゃんの代わりにやけどを負ってくれました。

私達のイエスさまはやけどどころじゃない、十字架にかかって血を流して死んで下さいました。

せつかく神様の似姿として造られた私達、いつの間にか悪い心、みにくい心、罪で一杯になってしま

って、神様はもう生かしておくことが出来ないと思われた時、イエス様は私達に代わって死んで下さって、私を生ける者として下さった。そして三日目に復活して下さい、今も私と共にいてくださる。

イエスさま！ごめんなさい。

イエスさま！ありがとう。

イエスさま！大好き。

それがイースターなのです。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

## 「復活の主イエスに与る」

白根義輝

私が小学生のとき、同時期ではありませんが、二人の友達のお母さんが亡くなりました。二人とも家が近かったので、遊ぶ機会がたくさんあり、何度もお邪魔したものです。お母さんが亡くなった後、一人はとても悲しそうでした。心の内は分かりませんが、もう一人の友達は、何故か淡々としているのが印象的でした。

私自身、人が死ぬ、亡くなるということがよく分かっていたので、二人とも、もうお母さんと話することもできないし、作ってくれたお料理を食べられないでかわいそうだな、ぐらいいか思わず、それ以上のことを考えることもありませんでした。

やがて18歳になったとき、祖父が74歳で天に召されました。同居の家族が亡くなったのは、そのときが初めてでした。それまでは、人が亡くなってもどこか他人事でしたので、初めて悲しみと恐れが自分の身に襲い掛かってきました。

おじいちゃんが生きているうちに、もっといろいろなことをしてあげられたのではないか、という後悔の気持ちや悲しみ、不安が混濁して、ただただ涙があふれてきました。自分自身、死に対する備えが全くなかったからです。

やがて10年近くが過ぎ、自分の罪と向き合い、イエス・キリストに救いを求めて、26歳のクリスマスにバプテスマを受けました。

その後、あるお年寄りの葬儀に参列したときのことです。まさに、最後のお別れとなり、家族が棺の回りに集まりました。棺の中には、お寿司や果物などの食べ物が入れてありました。そして、口々に、「おばあさん、いいところへ行ってくれよ。」と泣き叫んでいる場面がありました。愛する家族を失った悲しみと、死んだらどうなるのか、魂がどんな所へ行くのか分からない不安と恐れがあったからだと思います。その様子は、以前、信仰を持っていなかった、

神様を信じていなかった自分の姿そのものでした。

受洗してから 10 年後、小さい時からずっと可愛がってくれたおばあちゃんが 93 歳で天国に召されました。おばあちゃんは召される前、病院のベッドで、すやすやと眠っているようでしたが、一緒にいられる時間はそう長くはないと分かっていました。頬に触れれば暖かく、顔を近づければ呼吸する音が聞こえてきます。その時、おばあちゃんは天国へ移されるんだ、と思いました。聖書の知識としてではなく、実感として永遠の命を信じ確信することができまし

た。

5 年前に母が召された時も同様でした。当然、愛する家族の死、とりわけ母親の場合は、理由なしに悲しく、涙があふれるのを禁じえませんでした。しかし、不安や恐れは全くありませんでした。

イエス様が私たちの罪を許すために十字架につけられ、そして復活されました。同じように、私たちイエス様を信じる者には永遠の命が与えられるとの神様の約束、恵みを、改めて覚えて感謝したいと思います。

α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ ν ξ ο π ρ σ τ υ φ χ ψ ω

### 私の愛唱讚美歌 梅谷興三

(讚 21) 5 7 5 「球根の中には」

文言がよくできていて、しかも深い。“復活”の現代的解釈のヒントを与えてくれる。

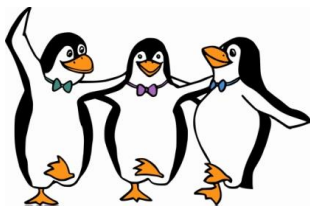
に携わった船長だったと記憶している。紹介した新聞紙上に、船艙の中にまるで丸太を並べたようにぎっしりとど奴隷を詰め合わせた奴隷船の見取り図を見たことがあった。英語表現は特に身に沁む。

球根のなかには 花が秘められ、  
さなぎの中から いのちはばたく。  
寒い冬の中 春はめざめる。



その日、その時を ただ神が知る。

*Amazing grace how sweet the sound  
That saved a wretch like me.  
I once was lost but now am found,  
Was blind but now I see.*



なんと美しいひびきであろうか  
私のような者まで救ってくださる。  
道を踏み外し、さまよっていた私を  
神は救い上げて下さり  
今まで見えなかった神の恵を  
今は見出すことができる。

(讚 21) 4 5 1 「くすしき恵み」

Amazing Grace



John Newton (1725-1807・原作者) は確か、奴隷売買



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω  
α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω

## 主 私と共にいる 感謝です 中川澄子

わたしはモーセと共にいたように  
あなたと共にいる。  
あなたを見放すことも  
見捨てることもない  
雄々しくあれ。 37記 1:5

あなたがどこに行っても  
あなたの神 主はともにいる。 37記 1:9

この二つの御言葉は、私の体の中を走り回っています。感謝です。

**私と共にいる 私を見放すことも  
見捨てることもない。**

実感をいただいています。感謝です。

夕食の支度をしている時、急に腹部に激しい痛みがつづき、うめきながら祈りました。私の口から出ている祈りなのに不思議です。

「痛みを取って下さい」とは、祈ってないのです。激しい痛みで床にぺたんと座り込んでいましたが、私の耳に聞こえてくるのは「神様、感謝です。いつもいつも、こんな激しい痛みでないことを感謝します。いつもこんな激しい痛みもなく生活しているこ

とを、感謝します」と、くり返しくり返し祈っていました。痛みが消えてから腰に力が入らず、しばらくは腰抜け状態でした。その時私が祈っているのだけれど、イエス様が私の口を通して天の父に祈ってくださっている、と実感しました。私だったら「痛みを取ってください。早くとってください」と、不満と怒りの祈りだった、と思います。

いつも共に居てくださる主が「日々のあたり前の生活が賜りもの、恵みのありがたさ」を教え、感謝して祈ってくださっているのだと感じました。主 共に居て下さること。実感 感謝です。

今後私にできることは、その時その場、全力で他者の力になり、主と会話をしながら祈り、多くの方々と共に歩んでいきたいと思います。委ねます。感謝 感謝です。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω

## 祈り

罪深い私は、ただただ祈りにより信仰の慰めを頂き感謝するのです。御心ならば慈しみとお恵みを頂き、希望をもって、安らかに生きていけますように。信仰と、愛は常に語る以上のことを行う。そして、キリスト者は、言葉少なく多くを行う。

## 根岸千恵子

静けさの果実は祈りである。  
祈りの果実は信仰である。  
信仰の果実は愛である。  
愛の果実は奉仕である。

奉仕の果実は平和である。

ルターやマザーテレサが語る神様からのメッセージを幼く生ぬるい信仰の私は何一つ、行うことができず御心を求めて、今も生きておられる貴方が共に居て下さる事を祈るのです。



α β γ δ ε ζ η θ ι κ λ μ μ ν ξ ο π ρ σ σ τ υ φ χ ψ ω

「友を近くに置き、敵はもっと・・・」 ゴッドファーザーの名言より  
「隣人を愛し、敵を憎め」 律法の掟  
「汝の敵を愛せよ」(マタイ 5:44、ルカ 6:35)

犬塚志朗

「友を近くに置き、敵はもっと近くに置き」“Keep your friends close, but your enemies closer.” は元来孫子が生み出した格言で、映画で使用されたことによって、特に実業界に携わる多くの人々に知られるようになったとのこと。しかし実業界とは無縁の私が、人生後半になって自分なりの解釈で実感として気付いた名言のひとつです。

大学卒業後すぐ、私学の中学高校の教員として勤務し始めました。そして自分と考え方や性格が似ていて、いわゆる相性のよい同僚、先輩・後輩教師、生徒達の狭い学校社会で居心地よく働いていました。

ところがその教員生活真っ盛りで、若輩の生徒たちのお山の大将として君臨し、突っ走っているさ中、性格が私とは真逆で一定の距離を置いているかのようなある後輩の教師から私に苦言が呈されました。

「あなたは教師としてのやり方が間違っているっ！」

その時は宴会の席で、私に対する苦言がじくじくと続きました。「生徒を管理し過ぎ、絞めつけ過ぎだ!! それでは生徒の心が読めない!! …」等々、更に

痛烈に責められました。

「何を！生意気な!!」私は寝不足と日頃の疲れで、怒り爆発しそうになりました。その時気配を感じて相手を制した先輩教師、その光景が昨日のできごとのように臉に残っています。

それ以降、気の合う仲間同士の狭い空間にいると気付かなかった反対の意見、考え方、自分の欠点に気づき始めました。私は少しずつ考え方を変え始めたところ、苦言を呈して私を怒らせた教師は私に言うようになり、「困ったことがあったら何でも言ってほしい。助けてあげる」と。

その頃から私は指導に従わない生徒、目立たない日陰にいる生徒、保護者の訴えに耳を傾け、積極的に接するように心掛けました。それは教師としては当然の行動ですが、気づくのが少し遅かったようです。多くの生徒、保護者の皆さんに迷惑をかけてしまいました。

友から学ぶことも多いけど、敵対していると思われる人から、人生観、生き方までも変えるほどの重要なことを学ぶ可能性があることに気づきました。

「敵」とはなんでしょうか？  
いくつかの意見を羅列します。

- ◇「汝の敵を愛せよ」は文字通りに解釈すればただの矛盾です。愛する相手はすでに敵ではありません。
- ◇「敵と思っている者が本当に敵なのか、よく考えなさい。愛すべきものまで敵と見なしてないか、よく考えなさい」と、旧約時代の律法「隣人を愛し、敵を憎め」という掟に盲従する危険性を説いたのは、法政大学名誉教授・宗教学者（元関東学院大学神学部助教授）。
- ◇「自分を愛してくれる人を愛することは、誰にでもできる。悪意を持って自分を迫害する者にこそ、慈愛をもって接しなければならない」とはイエス・キリストの戒め。（マタイ 5：38～48、ルカ 6：27～35）
- ◇敵意を持つ者、憎しみを持っている者、仇(かたき)、仕事上のまたは競技の競争相手、戦争時に戦う相手、等々(広辞苑)

私が 19 歳になりたての春、友人と二人で京都・奈良方面に旅に出かけました。ずっとサイクリングで気ままに。京都でのテント生活中、ちょっとした隙間を縫って友人の携帯ラジオが盗まれてしまいました。ずっと大切にしていた宝物を……。彼はひとしきり悔し涙を流したあとそっと呟(つぶや)きました。「『罪を憎んで、人を憎まず』だよな！」(孔子のことば、ヨハネ 7：53～8：11 等々)。

日本の神社仏閣巡りで夢中であった頃のできごと



で、孔子も聖書も無縁の大学一年生の春休み、その時友人が呟いたこの格言が、今になって理解できるようになりました。



「敵」とは、私はどの場面にも区別なく同じ「敵」があてはまる様な気がしています。

と、結論が出そうなところで今、過激テロ、残虐非道、卑劣な犯罪、ISIL による人質処刑、憎しみと復讐の連鎖、空爆による一般人殺戮、格差社会での爆買いに興ずる人々と貧困にあえぐ人々等々、暗いニュースが飛び交っています。自国の利益追求、地球資源とその利権をめぐる利害関係、国々の対立と同盟国化、解決への道は見つかりそうもありません。

み国が来ますように  
みこころが天に行われるとおりに  
地にも行われますように



Hanging design by Noriko Ohi

カリグラフィー 星野富容書・画

筆触と筆線を利用する平面芸術  
実物は当教会一階ホールに展示中

病者の祈り

～ニューヨーク・リハビリテーション  
研究所の壁に書かれた一患者の詩～

# A Creed for Those Who Have Suffered

I asked God for strength, that I might achieve  
I was made weak, that I might learn humbly to obey...  
I asked for health, that I might do greater things  
I was given infirmity, that I might do better things...  
I asked for riches, that I might be happy  
I was given poverty, that I might be wise...  
I asked for power, that I might have the praise of men  
I was given weakness, that I might feel the need of God...  
I asked for all things, that I might enjoy life  
I was given life, that I might enjoy all things...  
I got nothing that I asked for - but everything I had hoped for  
Almost despite myself my unspoken prayers were answered.  
I am among all men, most richly blessed!



大事を成そうとして  
力を与えてほしいと神に求めたのに  
慎み深く従順であるようにと  
弱さを授かった

より偉大なことができるように  
健康を求めたのに  
よりよきことができるようにと  
病弱を与えられた

幸せになろうとして  
富を求めたのに  
賢明であるようにと  
貧困を授かった

世の人々の賞賛を得ようとして  
権力を求めたのに  
神の前にひざまづくようにと  
弱さを授かった

人生を享楽しようとして  
あらゆるものを求めたのに  
あらゆるものを喜べるようにと  
生命を授かった

求めたものは一つとして与えられなかったが

